第3種郵便物認可　R3.8.19木　京　都

支援校生 仕事やり遂げる

乙訓の公的機関で「庁内実習」始まる

就労意欲や雇用機会に

向日が丘支援学校高等部の生徒や乙訓在住で障害のある人が就労を目指して公的機関で仕事を体験する「庁内実習」が始まった。

オンライン会議の資料送付を準備するなど任された仕事をやり遂げた向日が丘支援学校高等部の男子生徒（左）＝長岡京市井ノ内・乙訓福祉施設事務組合

初めて実習を受け入れた乙訓福祉施設事務組合（長岡京市井ノ内）では、高等部2年の男子生徒（16）がオンライン会議資料の送付準備など、任された仕事をやり遂げた。

庁内実習は乙訓2市1町などが2017年から受け入れている。事務組合では、男子生徒が会議で必要な10種類の書類のうち、片面や両面印刷が必要かどうかを確認しながらコピーし、45人分の資料をそろえて、封筒に封入。コピー機の紙詰まりなどのトラブルも相談して解決し、防災ヘルメットのシール貼りも仕上げた。職員から「手間のかかる仕事をしてくれて助かりました」と感謝されると、生徒は「貢献できていたら幸いです」と謙遜していた。

事務組合の城谷晋太郎総務課長は「さらに仕事を頼んでも大丈夫だと感じた。この機会が就労意欲や雇用につながればうれしい」と話していた。

実習を仲介した乙訓圏域障がい者自立支援協議会によると、コロナ禍で製造業や介護、飲食での受け入れが減り、負担を懸念して実習先がなかなか見つからないという。夏川久子事務局長は「実際に働く姿を見れば、仕事ができるということが分かってもらえる」と話していた。

同協議会は自治体や企業などの実習受け入れ先を探している。問い合わせは075（954）7939。（古市大）